

政 策 24

～財源、財産を適正に管理し、配分します～

後期基本計画における「めざそう値」等一覧

【めざしたい将来像】

市民ニーズに弾力的に応えられる活力に満ちた松戸市となるために、発展性のある健全な財政運営を実現します。そのために、将来を見越して、社会資源の有効活用を図りつつ、柔軟かつ大胆な発想で歳入・歳出とも不断の見直しを行います。

上段:めざそう値(目標) 下段:実績

	前期基本計画		現状値	後期基本計画		
	13年度	19年度	24年度	25年度	32年度	
財政力指数	—	0.886	0.950	—	0.980	1.050
	0.886	0.963	0.905	0.883		

【めざそう値(32年度)設定の考え方】

本市の過去の財政力指数の最高値をめざす。
(平成3年度 1.053)

上段:めざそう値(目標) 下段:実績

	13年度	前期基本計画		現状値	後期基本計画	
		19年度	22年度	24年度	25年度	32年度
経常収支比率	—	85.0%	89.0%	—	90%	85%
	86.4%	92.1%	90.2%	90.0%		

【めざそう値(32年度)設定の考え方】

今後の社会情勢から歳出構成を考慮すると、厳しい値であるが、高い目標を掲げ今後も適正な財政運営をめざす。

上段:めざそう値(目標) 下段:実績

	13年度	前期基本計画		現状値	後期基本計画	
		19年度	22年度	24年度	25年度	32年度
自主財源比率	—	71.5%	71.5%	—	70%	70%
	67.0%	72.6%	60.8%	58.6%		

【めざそう値(32年度)設定の考え方】

今後の経済情勢を考慮すると、厳しい値であるが、高い目標を掲げ、引き続き市税を中心に自主財源の確保をめざす。

上段:めざそう値(目標) 下段:実績

	13年度	前期基本計画		現状値	後期基本計画	
		19年度	22年度	24年度	25年度	32年度
将来負担比率	—	—	—	—	40%	35%
	—	30.1%	26.4%	13.6%		

【めざそう値(32年度)設定の考え方】

健全な財政を維持しつつ活力ある松戸市とするため、まちづくりにも対応した値をめざす。

政策24

財源、財産を適正に管理し、配分します

1.財源を確保し、有効に配分します

1. 現況と課題

先の見通しが立たない経済情勢にあって、本市財政運営は厳しい局面にあります。
財政健全化法に基づく、健全化判断比率（実質赤字比率、連結実質赤字比率、実質公債費比率、将来負担比率）は、大幅に早期健全化基準を下回っており、健全な状況にあります。

しかしながら、財政構造の弾力性を示す「経常収支比率」は、平成13年度に86.4%であったものが、平成23年度には90.0%まで上昇しています。一般的には、建設事業等に一定の財源を振り向けるためには、経常収支比率は、70～80%の範囲にあることが望ましいと言われています。

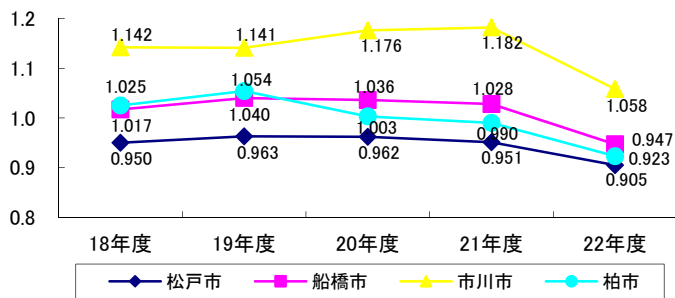
なお、自主財源比率については、平成13年度に67.0%であったものが、19年度は72.6%になりましたが23年度には58.6%となり、再び低下しています。

また、本市の市民一人当たりの市税収入は、平成23年度140,513円であり、近隣の市川市、船橋市、柏市と比較して、約1割低くなっています。こうした担税力からも、さらなる行財政改革を続ける必要があります。

【特筆すべきニーズの変化】

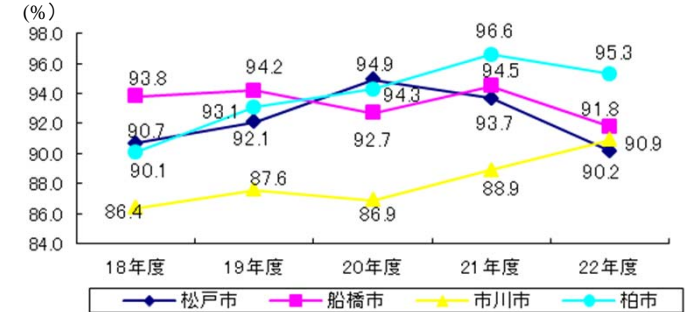
- ① 将来への負担を軽減し、財政力に見合った行財政運営を行うことが求められています（ニーズの増）
- ② 市税の収納率をより向上させて、税負担の公平性を確保することが求められています（ニーズの増）

●財政力指数(他市比較・経年変化)



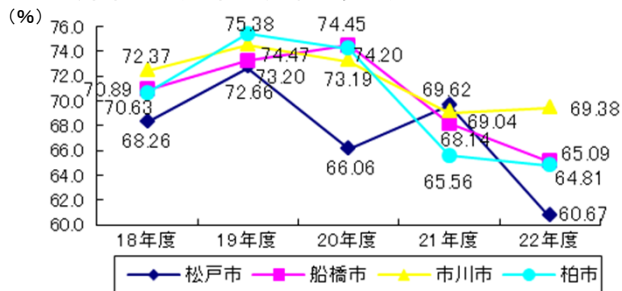
出典 松戸市の財政状況[平成22年度決算版]をもとに作成

●経常収支比率(他市比較・経年変化)



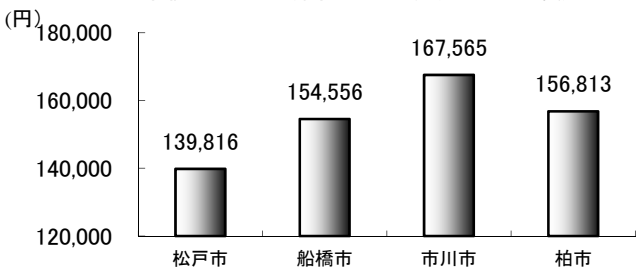
出典 松戸市の財政状況[平成22年度決算版]をもとに作成

●自主財源比率(他市比較・経年変化)



出典 松戸市の財政状況[平成22年度決算版]をもとに作成

●1人当たり市税収入の近隣市との比較(平成22年度)

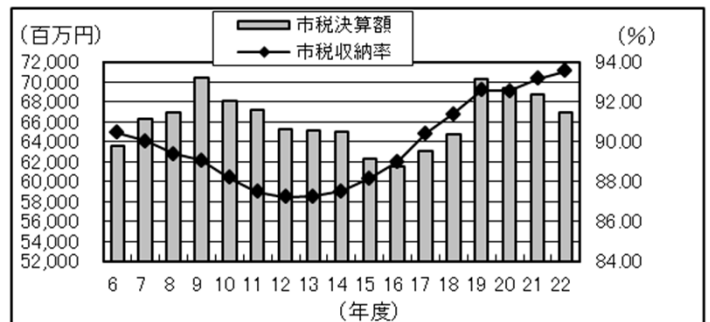


出典 松戸市の財政状況[平成22年度決算版]

●市税決算額と収納率

(単位：千円、%)

年度	決算額	収納率		合計
		現年度分	過年度分	
6年度	63,570,424	96.96	17.06	90.47
7年度	66,355,723	96.91	16.69	90.03
8年度	66,957,630	96.90	15.88	89.38
9年度	70,491,875	96.77	15.57	89.08
10年度	68,107,893	97.21	13.90	88.21
11年度	67,198,662	97.16	11.88	87.48
12年度	65,249,824	97.14	13.70	87.23
13年度	65,148,050	97.20	13.14	87.25
14年度	64,993,124	97.48	13.75	87.52
15年度	62,304,177	97.61	16.63	88.17
16年度	61,487,094	97.90	18.01	89.01
17年度	63,082,903	98.30	18.41	90.43
18年度	64,745,563	98.13	17.83	91.38
19年度	70,361,199	97.97	21.90	92.60
20年度	69,447,577	97.77	20.23	92.57
21年度	68,819,413	97.99	24.96	93.18
22年度	66,969,854	98.24	27.20	93.55



出典 松戸市の財政状況[平成22年度決算版]

2. 施策の展開方向

平成19年に、「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」が成立し、平成20年度決算から新たな健全化判断基準と再生判断基準が適用されました。本市においては、これまでも「松戸市行財政改革計画」などにより取り組んできましたが、行財政改革の一層の推進が必要とされています。

また、市税の収納率向上に向けた取り組みとして、差し押えた不動産の公売を行うなどのほか、市税以外の各種料金等についても税と一元的な滞納管理を行うとともに、担税力の強化を図ることにより歳入の確保を図ります。

歳出については、義務的経費の増加を極力抑制しつつ、選択と集中により、限られた投資的経費を有効活用し、最大の効果があがるよう不断の見直しを行います。

なお、基本計画に掲げられた施策を個別事業にまとめ、財政的な裏づけをもたせた実施計画を着実に推進するため、毎年、中期的な財源推計を行いながら、事務事業を見直し、計画的な財政運営を行っていきます。

3. 施策を推進していく上での課題

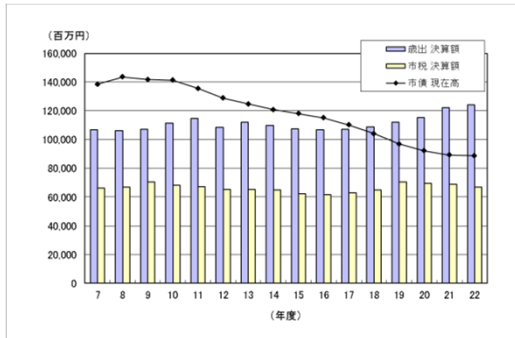
財源の有限性を今一度認識し、施策の選択と集中にあたっては、事業効果等の検証は当然のことながら、優先度、緊急度など、従来にも増した施策の評価が必要となってきます。

その中で、健全財政を維持しつつ、新しい市民ニーズに応えていくためには、歳出構造を再構築するなどし、財政構造の弾力性を取り戻すことが課題となっています。

【特筆すべき松戸の強み・弱み】

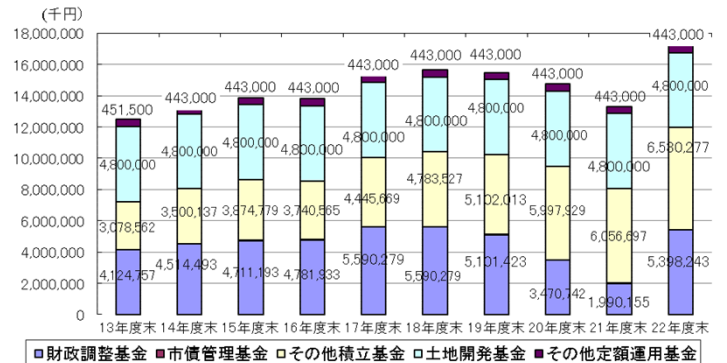
- ① 市債現在高を減少させ、実質公債費比率を抑えて低下させています（強み）
- ② 1人当たり市税収入額が他市に比べて低くなっています（弱み）
- ③ 滞納整理強化により、その方策やノウハウが充実しています（強み）

●市債現在高の推移（一般会計）



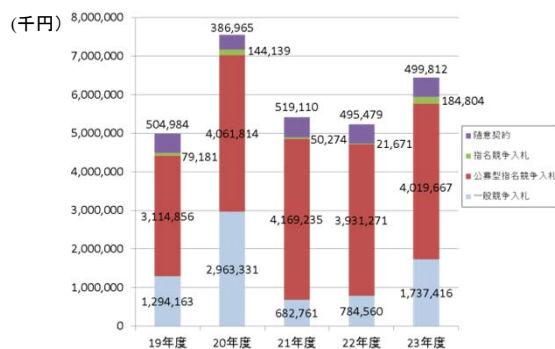
出典 松戸市の財政状況[平成22年度決算版]

●基金の状況



出典 松戸市の財政状況[平成22年度決算版]

●種類別の契約金額の推移（建設工事のみ）



出典 契約課資料をもとに作成

●財政健全化法における各指標の基準(%)

(指標)	実質赤字比率	連結実質赤字比率	実質公債費比率	将来負担比率	公営企業における資金不足
早期健全化基準	11.25	16.25	25	350	
財政再生基準	20	30	35		
経営健全化基準					20

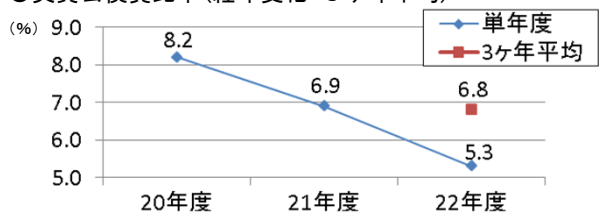
出典 総務省通知をもとに作成

●実質収支比率（経年変化）



出典 決算状況(各年度版)をもとに作成

●実質公債費比率（経年変化・3ヶ年平均）



出典 松戸市の財政状況[平成22年度決算版]をもとに作成

政策24

財源、財産を適正に管理し、配分します

2. 財産を管理し、有効な活用を図ります

1. 現況と課題

本市においては、昭和40年代から50年代にかけて、公共施設を市内各所に整備してきました。こうした公共施設が、建築年から相当年数を経過し、修繕や耐震化、建替え等への対応が課題となっています。

なお、市民意識調査によると、「市役所・支所を不便に感じている人の割合」は、平成21年度の37.0%から、24年度は33.5%と減少は見られますが、より使いやすい施設に改善していくことが、課題となっています。

【特筆すべきニーズの変化】

- ① 老朽化した公共施設の再編・整備が必要であると思われています（ニーズの増）
- ② 遊休財産については、有効利用又は処分をして欲しいと思われています（ニーズの増）

●平成21年度末のバランスシート(貸借対照表)簡略版

借方	貸方
資産合計	負債合計
297,017,613	133,252,645
流動資産 (現金、財政調整基金など)	流動負債 (1年内償還予定地方債など)
11,797,733	11,788,579
有形固定資産	固定負債 (地方債など)
257,005,456	121,464,066
物品 (器具備品など)	
2,031,286	
普通財産 (建物、土地)	
10,132,871	
行政財産 (建物、土地)	
244,526,152	
建設仮勘定	
315,147	
投資その他の資産 (投資及び出資金、財政調整基金以外の基金など)	
28,214,424	
	正味財産合計
	163,764,968

●主な公共施設(施設名・建築年度)

施設名	建築年度	施設名	建築年度
市役所本館	昭和34	常盤平市民センター	昭和47
市役所新館	昭和45	東部市民センター	昭和48
市役所別館	昭和57	総合市民センター	昭和49
市役所議会議場	昭和53	小金原市民センター	昭和50
常盤平支所	昭和47	古ヶ崎市民センター	昭和51
小金原支所	昭和50	馬橋市民センター	昭和51
六美支所	昭和54	五香市民センター	昭和52
馬橋支所	平成23	明市民センター	昭和53
新松戸支所	昭和56	小金市民センター	昭和53
矢切支所	昭和57	六美市民センター	昭和54
東部支所	昭和58	新松戸市民センター	昭和56
小金支所	平成4	馬橋東市民センター	昭和57
六和クリーンセンター(松戸市清掃工場)	昭和51	小金北市民センター	昭和58
クリーンセンター(第2松戸市清掃工場)	昭和55	松飛台市民センター	昭和59
東部クリーンセンター	昭和55	二十世紀が丘市民センター	昭和60
日暮クリーンセンター	昭和62	八柱市民センター	昭和63
和名ヶ谷クリーンセンター(第3松戸市清掃工場)	平成7	八ヶ崎市民センター	平成3
小金原体育館	昭和59	北山市民会館・斎場	昭和48
常盤平体育館	昭和61	衛生会館	昭和51
榎ノ木台公園体育館	平成11	女性センターゆづりまど	昭和55
松戸運動公園体育館	昭和49	勤労会館	昭和55
松戸運動公園陸上競技場	昭和51	市民会館	昭和59
松戸運動公園武道館	昭和46	市民劇場	昭和55
松戸運動公園野球場	昭和46	森のホール21(文化会館)	平成5
松戸運動公園プール	昭和46	市立図書館本館	昭和48
新松戸プール	昭和56	博物館	平成4
栗ヶ沢公園庭球場	昭和46	戸定歴史館	平成3
金ヶ作公園庭球場	昭和48	青少年会館	昭和50
東部スポーツパーク	昭和54	総合福祉会館	昭和50
クリーンセンター内スポーツ施設	昭和55	まど市民活動サポートセンター	昭和49
和名ヶ谷スポーツセンター	平成7	新松戸未来館	平成21
パークセンター(21世紀の森と広場)	平成5	健康福祉会館	平成10

出典 松戸市の貸借対照表[平成21年度末版]をもとに作成

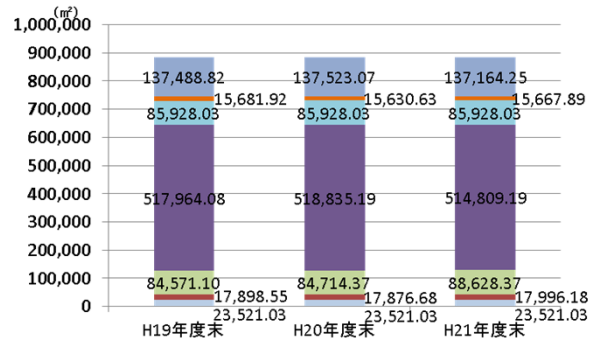
出典 管財課資料をもとに作成

●車両種別台数(台)

車種	H19.3末	H20.3末	H21.3末	H22.3末	H23.3末	H24.3末
乗用車	23	24	26	28	25	25
軽自動	121	124	126	148	154	152
貨物車	97	99	94	72	67	64
原付バイク			5	5	5	5
乗合自動車	9	9	8	8	8	8
特種車(一般用途)	14	13	15	14	12	12
特種車(消防用途車)	34	35	33	35	35	35
消防車	76	75	75	71	71	71
救急車	14	13	13	14	13	13
特殊作業車	7	16	16	17	16	16
合計	395	408	411	412	406	401

出典 管財課資料をもとに作成

●行政財産(建物)の用途別延べ面積



出典 財産に関する調査(各年度版)をもとに作成

●市が保有し、管理する道路および橋梁の状況

道路	延長(m)	面積(m ²)
市道	1,089,103	6,846,163
供用	16,475	—
未供用	1,105,578	6,846,163

橋梁	橋数	延長(m)	面積(m ²)
永久橋	336	5,571	41,524

貸借対照表日現在の道路・橋梁等のインフラ資産にかかる累積投資額の金額

用地取得	36,584,910
用地取得以外	155,328,161

出典 松戸市の貸借対照表[平成21年度末版]をもとに作成

2. 施策の展開方向

市の様々な財産を、適正に管理するとともに、その資源を活かし有効かつ効率的に運用していきます。また、公会計による財務4表(貸借対照表・行政コスト計算書・純資産変動計算書・資金収支計算書)の整備を進め、市の財産の現状を広く公開していきます。

行政目的としての役割が終了した財産(土地等)については、売却も含め、有効的な活用を図ります。その他、行政目的として先行取得した土地については、その事業の方向性も含め、有効活用を検討します。

耐震性が不足している公共施設については、「松戸市立小学校及び中学校施設等耐震改修基金」などの有効活用を図り、計画的な修繕・耐震化を進めていきます。

本計画の計画期間である平成32年度以降には、人口急増期に建設した公共施設が、次々に50年以上を経過することから、適切な維持管理により延命化を図りつつ、今後の市民ニーズの変化も見越した中で、市民意見を聴きながら、公共施設の再編に向けたプランづくりを行います。

3. 施策を推進していく上での課題

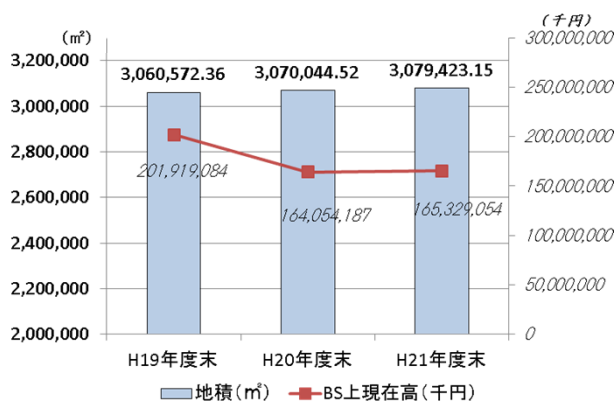
財政改革計画などに基づいて負債の圧縮に努めてきたことにより、他市と比べても過度に負債に依存することのない行政運営を行っていますが、今後は、世代間の負担バランスを考慮しつつ、適切な社会資本への投資を図っていく必要があります。

行政目的としての役割が終了した財産(土地等)は普通財産として管理することとなりますが、有効的な活用が図れない場合には、最低制限価格を設定し一般競争入札により売却処分を行っております。しかし、市有地の売り払いを実施しても入札応募がない場合もあり、必ずしも処分がスムーズに進まないのが現状です。老朽化した建物については、売却が見込めないため建物を取壊し、土地のみを売却することが考えられますが、取壊し費用が多額であるなどの問題もあります。

【特筆すべき松戸の強み・弱み】

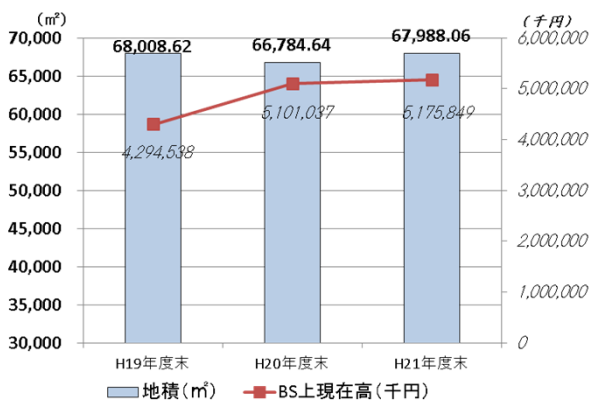
- ① 公共施設が老朽化しており、将来的に修繕・再建築などの投資が必要となります(弱み)
- ② 市内に公共施設が充実していることから、既存の施設を活用した新たな公共サービスの展開を図る基盤があります(強み)

●行政財産(土地)の地積及びバランスシート上の現在高



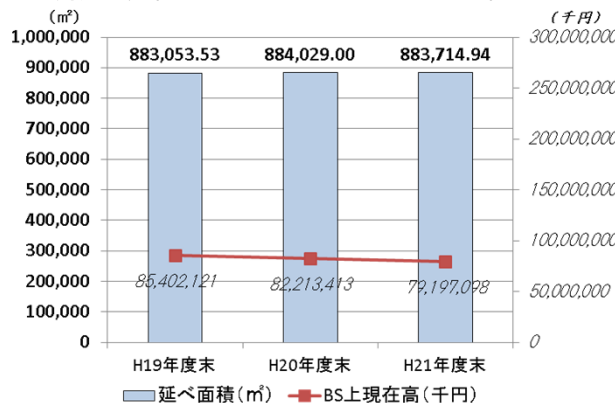
出典 松戸市の貸借対照表[平成21年度末版]をもとに作成

●普通財産(土地)の地積及びバランスシート上の現在高



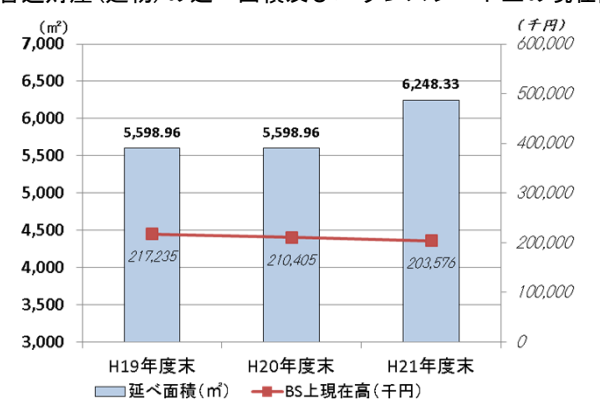
出典 松戸市の貸借対照表[平成21年度末版]をもとに作成

●行政財産(建物)のバランスシート上の現在高



出典 松戸市の貸借対照表[平成21年度末版]をもとに作成

●普通財産(建物)の延べ面積及びバランスシート上の現在高



出典 松戸市の貸借対照表[平成21年度末版]をもとに作成